

# 令和5年度（2023年度）第1回 熊本市自転車利用推進協議会 議事録

I. 日時：令和5年（2023年）8月24日（木） 午前10時～

II. 場所：桜の馬場 城彩苑 多目的交流施設

III. 配布資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・配席図
- ・資料1 自転車利用推進協議会について
- ・資料2 自転車活用推進計画について
- ・資料3 新水前寺駅駐輪場の改修について
- ・資料4 シェアサイクル実証実験事業について
- ・資料5 自転車ヘルメットの着用推進について

IV. 議事要旨

1. 開会 事務局挨拶	
2. 委員紹介	
3. 会長選任・副会長選任 吉城会長、田原副会長を選任	
4. 議題	
(1) 自転車利用推進協議会について	
事務局	資料1に基づいて説明
(2) 自転車活用推進計画について	
事務局	資料2に基づいて説明
(1)、(2)について質疑応答	
会長	議題(1)、(2)について、何かご意見ご質問等はあるか。
委員	意見なし
会長	ここは少し全般的な部分なので、この部分では意見質問等出にくい部分もあるかと思う。また最後にでもお気づきの点があればご質問を。
(3) 新水前寺駅駐輪場の改修について	
事務局	資料3に基づいて説明

会長	議題（3）について、ご意見ご質問等はあるか。
委員	<p>高校にラック式の駐輪場を設置したが、自転車の荷物カゴのサイズが大きいため使いにくく、結局 2 年後にはラックを外して平置きにした。せっかく作られるのであれば、そういうスペースに留意してほしい。</p> <p>宇土駅の駐輪場でもラック式の場所については同様に、荷物かごが大きいと停めにくいため通路に停めてしまう、といったような現状があった。整備の際には自転車のカゴの大きさに注意してほしい。</p>
会長	<p>おっしゃるとおり、確かに自転車のカゴが大きく、結局ラックが1段とぼしでしか使われなくてスペースの有効活用されていない、などの現状があるかと思う。</p> <p>この意見について事務局から何か意見はあるか。</p>
事務局	<p>資料 3 の 1 ページ目にもあるとおり、学生の利用が大半の駐輪場となっている。また、2 ページ目の右側に主な利用者の声として、ご意見ありましたように、カゴが大きくなかなか停められないといったお声もある。</p> <p>今回駐輪場を改修する際には、現在ラックも様々なタイプがあるため、利用実態を踏まえながら利用しやすい環境づくりに努めてまいりたい。今後の予定としては、年内を目標に計画を固めたいと考えている。</p>
会長	<p>高校生の自転車の利用者数が大きい部分があるので、ぜひその実態を踏まえた設計やデザインとしていただきたい。</p> <p>ほか、意見はあるか。</p>
委員	<p>西側の駐輪場が現在収容台数 384 台で慢性的に超過している状況。今回の改修で台数を増やすということだが、どれくらいまで増やすことが可能なのか。</p>
事務局	<p>今回の改修では、横に広げることが難しく、今の区域内での改修とい</p>

	<p>うことになっているため、2段ラックを導入し、縦に積み上げることを考えている。平置きから2段ラックへ変えた場合、単純計算で1.3倍から1.5倍くらいなると試算。</p> <p>使いやすいラックの種類等も勘案しながら、配置の見直しや収容台数の確保について検討していく。</p>
<p>会長</p>	<p>2段ラックの上はなかなか使われにくい場合もあるので、ぜひ使いやすいよう設計を検討してもらいたい。</p> <p>ほか、何か意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>今回の課題にも出ているが、こどもを前後に乗せる電動アシストの自転車に乗っているママさん方が多い。</p> <p>経験上、こういった駐輪場は通路が狭いが、ここでこどもの乗せ降ろしをする必要がある。しかし、狭すぎて安全に乗せ降ろしをする場所の確保が難しい。さらに、子乗せ自転車に乗せるこどもというのは、年齢的にも降ろすとどこか走って出て行ってしまう可能性も考えられる。</p> <p>駐輪場の台数確保の課題もある中、全ての通路を広くするというのは難しいと思われるが、その点に考慮してもらえるとより使いやすくなるのでは。</p>
<p>事務局</p>	<p>子乗せの自転車は前後に乗せる場所があると大きなスペースを取り、また、乗せ降ろしの時にもある程度スペースがいるが、現状、新水前寺駅の駐輪場はかなり通路も狭い状況になっている。</p> <p>西側については、駅の真下で収容台数の確保を求める声も大きい。そのため、こちらについてはまず収容台数を増加させることを考えている。</p> <p>また東側については、西側と比べると比較的収容台数に余裕があるため、配置を見直しながら乗せ降ろししやすいようにスペースの確保を行うなどしたい。また資料にもあるとおり、雨の際に合羽を脱ぎ着する荷物置きスペースを求める声もある。そのため、屋根の設置や荷物置きスペースについても配置を効率的に考える中で検討していきたい。</p>

委員	<p>追加でもう一点。</p> <p>子乗せのアシスト自転車は大きいため、別にスペースを設ける想定かと思うが、もしその場所の近くに乗せ降ろしの場所を作るということであれば、多少奥まっても良いため出入口からなるべく遠いところが良いのではと思う。</p> <p>出入口に近い場合、降ろしたこどもがそのまま出入口から道路へ出て行ってしまいう危険性があるため、なるべく奥まった場所への設置が安心かと思われる。</p>
事務局	<p>実際に利用される方の声を反映しながら、配置設計について検討していきたい。</p>
会長	<p>そういったスペースの確保は必要。一方で広いスペースがあると、想定とは別の利用者が停めてしまう可能性もある。子育て世代の方が利用しやすいような環境、実態として使えるスペースの確保を行って欲しい。</p> <p>ほかに意見はあるか。</p> <p>(意見無し)</p>
会長	<p>では、次の議題の説明をお願いしたい。</p>
<b>(4) シェアサイクル実証実験事業について</b>	
事務局	<p>資料4に基づいて説明</p>
会長	<p>シェアサイクルについては、着実に利用者数を増やし、街なかでも見かける機会が増えてきているところかと思う。</p> <p>このことについて、何か意見や質問等はあるか。</p>
委員	<p>シェアサイクル実証実験の目的にはないが、資料の中には健康・環境といった点についても書かれている。マイカーから自転車への転換による医療費抑制効果など、自転車を利用することで健康にも良いと考えられる。</p> <p>現在、熊本連携中枢都市圏事業として、『げんき！アップくまもと』というアプリがあるが、チャリチャリで連携して、ポイント付与等の導入による健康づくりの取組を検討してみてはどうか。</p>

事務局	<p>自転車利用全般にはなるが、資料2の自転車活用推進計画の中にも示しているとおりに、基本方針2・施策3・取組④『熊本健康アプリ等との連携』についても計画の中で位置づけをしているところ。</p> <p>意見にあったような健康アプリとチャリチャリとの連携についても、関係部署との検討を開始している。こちらについては、チャリチャリに限らず自転車利用全般というところで検討を進めている。</p> <p>現在アプリの連携は、徒歩での利用などに限られているが、今後さらなる自転車利用促進に繋がるよう、関係アプリ等とも連携しながら施策を検討していきたい。</p>
会長	<p>良い取組だと思うので、前向きに議論を進めてもらいたい。</p> <p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>すごく上手く利用が増えていっている反面、次の議題にもあるようなヘルメット着用について課題があると思う。</p> <p>ヘルメットを持ち歩くのか、そこに常設するのか、それならば鍵をつけるのか、というところと連動して同じこの協議会で話している中で、かたやヘルメットなしでもオッケー、かたやヘルメット着用を推進して、というのは違うのかなと思ったので、苦言にはなるが発言させてもらった。</p>
会長	<p>これについて事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>自転車利用の際のヘルメット着用については、シェアサイクル、自分の自転車に限らず、自転車全般の着用が法令でも位置づけられている。</p> <p>シェアサイクルに特化して言えば、シェアサイクル利用の際に、アプリ内でヘルメットの着用を促したり、シェアサイクルポートにおいての啓発を行ったりしているところ。</p> <p>意見として、備え付けるなどのお声も頂くが、自転車を屋外に置くことも多いため、紫外線によるヘルメットの劣化や、サイズの不一致等でより安全性を損なうといった問題もある。また、他都市では、観光案内所等で貸し出すなどの取組を行っているところもあるが、なかなか</p>

	<p>か利用がされていないといった現状もある。</p> <p>そういった課題にどう対応していくのか、自転車利用全般での着用推進に向けて取り組んでいきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>重要なお指摘だと思う。シェアサイクルでのヘルメット着用はなかなかすぐに解決できる問題ではないが、今後考え続けていく必要がある。</p> <p>他に何か意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>2点質問がある。</p> <p>バス電車無料の日とのコラボ内容について教えていただきたい。</p> <p>また、チャリチャリとは関係ないが、自分の所有する自転車で街なかに入り入れる場合の、それぞれの駐輪場の利用状況についても教えていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、1点目のバス電車無料の日とのコラボについて。</p> <p>昨年度はバス電車無料の日及び100円の日という形で行ったものだが、コラボの内容としては、その日に合わせてチャリチャリの90円チケットを二枚配布している。90円とは、シェアサイクルの普通自転車を利用した際に15分利用できるものになっている。</p> <p>利用実態にもあるように、公共交通と結節性が高いシェアサイクルという点もあるため、シェアサイクルを活用して、公共交通の利用の促進にも繋げていけるよう取組を行っているところ。今年度の、10月、12月に予定しているバス電車無料の日についても、同じような内容で考えている。</p> <p>もう1点の質問にあった、街なかでの駐輪場の利用状況について。</p> <p>市営有料駐輪場5か所で、コロナ前の平成30年度で77万台、コロナ渦の中で一番低かった令和2年度で58万台となっている。かなり落ち込んでいたが、令和4年度になると70万台と徐々に回復してきている。令和5年度ではコロナが5類になり、さらに利用者は増加している状況。</p> <p>街なかでシェアサイクルが順調に推移している中、シェアサイクルの利用と街なかの駐輪場との利用実態の関連性が連動して動きがある</p>

	<p>のかという部分も含めての質問だったかと思う。</p> <p>結論から言えば、シェアサイクルの効果により、どれくらい自己所有の自転車による駐輪場の利用が減ったのかというところまでは具体的な分析は出来ていない状況。ただ、シェアサイクルの利用実態から鑑みると、短時間のチョイ乗りの定着、徒歩・自転車からの転換も一定数みられるため、駐輪場自体への自転車の乗り入れも減少しているだろうと考えられる。しかし、全体の自転車の総数から見ると、一日エリア内の動きで 1,000 台動いているものを個別に分析値を出していくのは難しい状況。</p> <p>乗り物をシェアしていくという動きは、個別の基盤への負荷を下げていく取組であると思うので、そういった意味でも今後もこのシェアの動きは進めていくべきかと考えている。</p>
会長	<p>シェアサイクルが普及することによって、駐輪場の台数はこれから街なかになにどれだけ必要になってくるのかといった議論は大事になってくる。また、無料の日に合わせてチャリチャリの無料クーポンについても、知らなかった部分はあるのもっと周知等お願いしたい。</p> <p>他に何かあるか。</p>
委員	<p>今後のエリア拡大予定として、熊大方面が資料に書かれているが、比較的用户が多いと思われる健軍電停の方面で広がっていく予定などはあるのか。</p>
事務局	<p>現在考えているのは熊大方面だが、委員の意見のとおり、健軍については重要な交通結節点であるため、そちらについても今後エリアの展開は検討したいと考えている。</p> <p>それら交通結節点への拡大もしていきながら公共交通の利用促進、さらにはマイカーからの転換による渋滞解消に努めていきたい。</p>
会長	<p>他には何かあるか。</p>
委員	<p>チャリチャリのヘルメットについて、スペース確保の問題はあるかと思うが、貸し出し用ヘルメットを多様なサイズをそろえて、紫外線に</p>

事務局	<p>よる劣化を防ぐためのロッカーを置いて貸し出しを行う。また、折りたためるヘルメットもあるので、それを無人で販売する。</p> <p>そういった施策は有効ではないかと考える。</p> <p>ヘルメット着用推進に向けては様々な取組を検討しているところ。</p> <p>ロッカーについては、現状チャリチャリのポートは限られたスペースに設置させていただいているところもあるので、その中でどう設置できるのか、管理面はどうするのか、また貸し出しについても観光案内所だけで良いのか、メーカーでも様々なヘルメットの改良等に取り組んでいるので、そういったことを複合的に勘案しながら、ヘルメットの着用推進に向けて取り組んでいきたいと考えている。</p>
会長	<p>折りたたみヘルメットについて、近頃では随分と小型軽量化されており、そういったヘルメットの進化と併せてシェアサイクルのあり方についても考えていかなければならない。</p> <p>他に何か意見はあるか。</p>

**(5) 自転車ヘルメットの着用推進について**

事務局	資料5 について説明
会長	本議題について、何か意見質問等はあるか。
委員	<p>取組について二つ提案したい。</p> <p>まず、一点目は学校でできそうな取組があると思う。中学生で自転車通学している生徒は全員ヘルメットをしているはず。していないと許可が出ないため。そういった点から、学校では必ず安全教育を行っている。それは、委員会の先生方や委員会の子が作成したものを使って行っている。そこに、せっかく動画を作られたのであれば、委員会活動や自転車通学の子の指導にご活用下さいというような形で学校に伝えていったらどうか。また、自転車を使うことによって、CO2の削減効果がどれくらいあるのかや健康にどのような効果があるといったデータも添えて、さらにはヘルメットを着用することにより死亡率がどれくらい低下するかなどのデータも添えて提供し、その後の報告してもらうようにする。報告があったところには、何らかの表彰を行い賞状を一枚贈るといった取組を行うことで、委員会の子たちもそ</p>

<p>事務局</p>	<p>れによる自己肯定感に繋がるのではないか。学校教育との連携で、新しく何かを始めるといって負担が大きいので、もう既にやっている安全教育と連携して使いやすい動画と10分程度のパワーポイントなどの資料をセットで学校に届け、使用後に報告したら認定証などを渡す、といったパッケージにすると、学びに使う学校が増えるのではないか。</p> <p>二点目は、企業も同じようなパターンで推進をお伝えしていけばいいのではないかと考える。企業も健康経営について力を入れている。健康であれば社会損失も減るため、そこに引っ掛けた形で健康ということを出したところ、SDGsの3番と、CO2の削減も企業は頑張ろうとしているので、SDGs13番。例えば、1日2km乗っただけでも、年間毎日乗ったら730km。ガソリン代は6000円分節約できる。CO2は88.2kg減るといったようにデータで出せるので、そういう形で何グラム削減したというのを数値化できるような形で自転車利用貢献企業へ表彰すると企業に対して頑張っているなというイメージも出るのかなと思った。</p> <p>こういった取組をすることで、ちょっとしたやり取りは出てくるが、広がりが出てくると考える。</p> <p>もう一つ付け加えると、ヘルメットについても、例えば、高速バスの最寄りのコンビニでチケットを売っているように、シェアサイクルのポートの最寄りのコンビニやお店にヘルメットを置き、そこから貸し出すというような取組はどうか。ヘルメットに直接触れるのが嫌な場合は、工場見学の際に使用するようなシャムパーハットのようなものを10~20円で売り、それを買って被れるようなセットで置いておくとヘルメットを使う人も増えるのではと考えた。</p> <p>一つ目の学校教育との連携の提案だが、ご意見のとおり、この辺りは実行していきたいと考える。中学校のヘルメットはたまご型、そのイメージを変えていきたい。そうすれば高校まで使えるため、そのような合わせ技でしていきたい。</p> <p>もう一点、企業では昨年度商工会議所を通して自転車通勤の状況についてアンケート調査をさせてもらった。結果的にはあまり自転車に関心がないという結果になった。ここについてはもっと伸ばしていかな</p>
------------	---

	<p>ければと考えている。委員から話があったような、健康経営や SDGs ということも進んできて、徐々に自転車通勤に転換するというような企業も出てくると思うので、そのあたりをターゲットに頂いた提案について取り組んでいきたい。</p> <p>シェアサイクルについて、コンビニにはスタート時当初に相談したことがあった。しかしコンビニのオーナーさんとの話の中で、貸し出しヘルメットの管理等の問題で導入には至らなかった。</p> <p>先ほどご意見にもあったような、折りたたみのヘルメットを売り出すという点に関しては、電動キックボードをシェアしている LUUP (ループ) という全国で展開している会社が、折り畳みのヘルメットを売り出そうとしている取組もある。そういった先行事例を見ながら、事業者と協力しながら着用に向けて取り組んでいきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>学校にあまり負担にならないように今の仕組みに組み込んだり、企業にも大きな負担なく実行できる効果的な取組をご提案いただいたと思う。</p> <p>他に何か意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>自転車に関しては、利便性と安全性の両立というのが非常に大事。県内の自転車事故の約 7 割が熊本市内で発生している。そのため、熊本市の取組は非常に重要なものと考えている。また、県下の高校生の交通事故での怪我の約 7 割は自転車乗車中となっている。生徒指導連盟の協力もあり、警察の調査においても高校生のヘルメット着用率は少しずつ伸びてきている。</p> <p>チャリチャリと普段の自転車の使い分けだが、チャリチャリに関してはチョイ乗り、15 分以下の利用が多い。普通の通勤通学は 30 分の場合によっては 1 時間などの長時間の利用も多いため、そのあたりのバランスを考えていく必要がある。</p> <p>車のシートベルトも、法律で始まった当初は付けていない人も多かったが、少しずつ伸びていった。こういった会議の場を通じてなど、安全の必要性について訴えさせてもらえればと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>現状をデータに基づき説明いただいた。</p>

事務局	<p>事務局から何かあるか。</p> <p>現在も県警とは一緒に取組を行っている。モデル校や事業所との施策に関しても連携してやっているところ。市だけでは周知広報にも限界がある。今後も県警とも連携しながら、今回ご出席の委員に関してもご協力いただきながらいろんなところへ周知広報等広げていきたい。</p>
委員	<p>高校でのヘルメット着用の状況について。</p> <p>この条例が出来た際に、校長・社長の責務、という文言が入っている中で、教職員の方は通勤する場合にはヘルメットの着用を義務付けて、100%全員が着用している状況。生徒の場合は、何が課題なのかという部分で一番大きいのはヘルメットを被って通学しても教室には置くスペースがない。駐輪場にそのまま置いておくのも不安だ、ということで今回相談し、ヘルメットモニターとしていただいている分は、ヘルメットを留めておけるような鍵もつけて貰った。それにより、ヘルメットを教室まで持ち上がらなくても、通学途中にどこかへ寄っても、そこに置いておけるようになったことでひとつ問題を解決できる。社会人と高校生の何が違うかと考えると、社会人や教職員もそうだが更衣室があり着替えることができる。高校生は通学時には、制服をほぼ義務付けられているため、着替えることが出来ない。暑い時期だと汗をかいたまま。ヘルメット着用するとなると髪型が汗で崩れるなどそういう部分で生徒たちが気にする。そのため、着用が進んでいない状況になっている。</p> <p>生徒の方には、条例制定後の10月には警察との話し合いもあり、2学期の終業式には地区の交通安全協会から講話をいただいたり、3学期には生徒会の方からヘルメット着用の必要性をデータも含めた説明をした上でモニターの呼びかけをするなど、取組を進めている。現状650人の通学者の中でヘルメット着用者は7~8人程度。夏休み期間でまたヘルメットを追加で頂いたので、これから少しずつ着用者が増えていくよう準備している。</p>
事務局	<p>高校生の意見として、ワークショップをした際にも髪型が崩れるという声はあった。ヘルメットを被るから、というより汗をかくことによ</p>

<p>委員</p>	<p>り崩れる面がある。そのためヘルメットとの間に空間を作って汗をかかないようにするものや、現在市販されているスプレーで汗を乾燥させるものなどあるので、そういったものがあるということ、実際に試してもらいながら情報発信していきたい。</p> <p>中学校についての現状を。</p> <p>中学校の場合は、登下校において自転車通学の場合はヘルメット着用が義務となっている。そのためほぼ 100%着用していると考えている。ただ、課題としては、帰宅後に遊びに行く時や塾に行く時、休みの時など、実際そこで被っているのかということ。ほとんど被っていないのでは、という現状もある。そのため、そこもしっかりと増やしていかないといけない。</p> <p>法律も努力義務となり、そこが大きな変わり目だと考えている。しかし強制力としてはまだ弱い。そこで、原点に戻り、何故ヘルメットを被らなければならないのか、被る必要があるのか。命を守るため、というところが大事。周知広報の際はそこをもっと前面に押し出した方が良いのではないか。</p> <p>一つ質問だが、現在の県との連携や今後の取組などあるのであれば聞きたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>中学生の頃は登下校では被っているが、高校生はまず登下校の際も被っていない。何故ならヘルメットを持っていないから。そのため、登下校を中心にまずはヘルメットを持ってもらうことが大事。その理解をどう進めるか。先生方から伝えてもらうこともあるが、市や県警などの外部から伝えるとより理解が深まるのではと考えている。そのため、良ければ話に伺いたい。機会があれば声をかけてもらいたい。</p> <p>県との連携だが、1~2 か月に 1 回程度、県教育委員会や市教育委員会と県警で関係者会議を開いている。そこで県立学校での取組推進についてもお話しさせてもらっている。徐々にではあるが、数字にも出ているように広がりが見られるため、引き続き県とも連携を取って取組を進めていきたい。</p> <p>ヘルメットについての話題になると、どうしても着用率が何%という話に特化しがちだが、そもそもヘルメットを着用する目的は何なの</p>

	<p>か、というところをしっかりと皆さんにお伝えしていくことが大事。そのために伝えていく手法として、先ほどまで出たような様々なアイデアを取り入れ、新たなことではなく今ある取組に付加することで、より伝わりやすく取り組む側も負担がないよう、皆さんに広く知って貰える機会を作ることができると思っている。</p> <p>着用率を上げるということは数値目標としてあるが、そもそも自転車は車両であって、事故等が起こった際には非常に重大な事故に至ることが多いということを、まず皆さんに知ってもらえるよう努力していく。</p> <p>そのため、県教育委員会や県警等関係機関、市教育委員会や生活安全課等の関係部署とも連携して、様々な課題がありハードルは高いが、クリアするために、ひとつずつ取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>また、こういったヘルメットの話などは数年前までは話題にも上らなかったと思うが、ここでこうして様々な意見が出ているということ自体が、今後に向けて一歩前進していると言えるのではないか。</p>
会長	<p>ほか、ヘルメットに関して何か意見はあるか。</p>
委員	<p>小学校の状況についてもお伝えしたい。</p> <p>小学校の場合は、通学に自転車を使うことはないが、熊本市小学生生徒指導申合せ事項というものを作っており、その中で自転車に乗る際は必ずヘルメットを被ることが、90 数校すべての共通理解となっている。各学校で校則を作っているが、主に遊びに行く場合だが、自転車に乗る際には必ずヘルメットを被る、という風になっている。</p> <p>先ほどからその目的とあるが、命を守るために子どもたちにこれからもしっかりと話をしていかなければならないと感じたところ。</p>
委員	<p>一つ追加で提案。</p> <p>中学校では道徳の時間があるが、その中で法や決まりの意義を理解した上でそれを守る心を育てる、という意味の文脈の教材を必ず取り扱う。そこで交通規則に関するものもあったりするが、自転車のヘルメットをしていたかしていなかったかによって起きた出来事を取り上げるような道徳教材のひな型があれば、先生たちも授業で取り上げら</p>

	<p>れるのではないか。</p> <p>元々項目の中であって、必ず授業を行う内容ではあるので、そこに自転車教育の位置づけを兼ねてやってみるのはどうか。小学校でも中学校でも取り組んでいることなので、そこで心が育って理解が進めば、高校生になっても大人になっても着用しようという人に育っていくのではないか。</p> <p>そういった、既にあるものに提案という形で取組を進めていくと良いのではないかと考え、提案させてもらった。</p>
会長	<p>今の意見に対して、事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>ヘルメット着用推進については、試行錯誤しながら取組を進めているところ。今のように現場の実態に即したような意見をいただくことは非常にありがたい。こういった意見を取りまとめながら、学校関係者の皆さんと話し合いながら、ヘルメット着用また安全利用の推進に向けて取り組んでまいりたい。</p>
委員	<p>今市内の現状を聞いたところ、小学生はみんな指導されている、中学生は通学であれば被っている、高校生になると通学時は義務ではない。この辺りで難しくなってくる。心配なのは、資料のアンケートにもあるように、法律や条例で義務となっていないからという意見がある。これはシートベルトの時と同じだと思う。シートベルトの時も、つけてください、命が危ないです、と言ってもつけない。だったら点数引きますよ、と。毎日そのような取締りを行っていた。そういった形で10年、20年、30年と続けてきて、今シートベルトをしていない人はいない。取り締まられる人もほとんどいない。ヘルメットも間違いなくそうなることが予想される。</p> <p>今、自転車の違反の取締りにについてもいろいろ国会等では話が出ていると思うが、結局啓発しても守られないのであれば、取り締まる必要があるのではないかという話になる。</p> <p>そうではない。こういったことは強制的にすることではない。学校や行政が啓発していくことはもちろんだが、まずは家庭での啓発もお願いしたい。家庭で危ないからヘルメットを被らなければいけない、と</p>

事務局	<p>いった安全教育も大事。それがあって、学校で言い、行政が言っていくといった流れ。本人が意識しないことには何の意味もない。被らない人ばかりが残り、最後には強制的に取り締まる、ということではいけない。そのため、大変ではあるがこれからも連携して着用推進に向けて取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>ヘルメットの話というのは、個人個人が利用者の命に繋がっているということをまず理解いただき、それが普及していく、というところはどう努力していくか、というのが我々がやるべき第一義的な事項であると思っている。そこに一歩ずつでも近づけるように、県警はじめあらゆる連携機関と協力し、またこういった協議会の場でご意見をいただきながら進んでまいりたい。</p>
会長	最後に会議全体を通して何か意見等あるか。
委員	<p>今回の議題に直接関係のある話ではないが、子育て世代から出た意見として話しておきたい。</p> <p>今話しているものについては、既に自転車に乗れる人が前提となった話だと思うが、最近では小学校 3 年生ぐらいのこどもの母親から、「まだうちの子は自転車に乗れない」といった話をよく聞く。今は、両親とも忙しかったりして練習につきそう時間が取れないということもあるのかもしれないが、よく聞く声として、自転車を練習する場所がない、というのが多い。車通りも多いので家の前の路地で乗ったりすることも難しく、また公園も自転車の乗り入れができない場所が殆ど。そのため、結果的に練習が出来ず、まだ自転車に乗れないといったこどもが多い。</p> <p>そういった部分も見直していかなければ、そもそもの自転車の利用人口が増えていかないのではないかと思った。</p>
会長	<p>ハッとさせられる意見だった。</p> <p>これについて、事務局から何か意見はあるか。</p>
事務局	今の意見については、気付いていない、思い起こさせていただけのような意見だった。

<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>先日、小学4年生の安全教育へ県警に同行して行ったが、多くの生徒が自転車に乗れないということがあった。その時は、まだこんなに乗れない子が多いのか、と思うだけであったが、今のご意見からそういった環境上の要因があるという新たな発見があった。</p> <p>今そこに対して、何らかの対策をとというのはすぐにお答えは難しいが、今のようなご意見も含めて、持ち帰って関係各所と話をしていきたい。</p> <p>ヘルメット着用について、学生の立場から。</p> <p>アンケート結果からも髪形など見た目の問題について触れられていることが多い。そういった問題を解決しようと、通気性をよくするためのエアヘッドや持ち運びしやすい折り畳みヘルメットがある。そういったものを購入しようとする、どうしても学生からすると高価なものも多い。そのため、多少なりとも金銭的な補助があると学生の立場としても有難いのではないと思う。</p> <p>ヘルメット関係の補助については、全国的にもそういった制度を取り入れて着用推進に取り組んでいるところもある。熊本市では現在そういった制度は設けていないが、今後他都市の状況・効果を見ながら導入の可否についても検討していきたい。</p> <p>また、そういった機能性の高いヘルメットについては、なかなかヘルメットに関心がない方々へは情報が届かない。そういった情報をどのようにして届けるか、また、どう支援をしていくかについて検討していきたい。</p> <p>それではこれで議事を終了する。</p>
<p>5. 閉会</p>	